

第8日

令和6年6月20日（木）

午前10時零分開議

○議長（小島清人君） 皆様、おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は18名で、会議は成立いたします。

議事日程表をお開きください。本日の議事日程については、タブレットに掲載のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、19日に引き続き一般質問を行います。

一般質問通告書をお開きください。

それでは、12番中島秀樹議員の質問を許可します。

（12番中島秀樹君登壇）

○12番（中島秀樹君） 皆様、おはようございます。独りぽつんと一般質問をします12番議員中島秀樹でございます。Jアラートも鳴ってちょっと動揺してしまいました。申し訳ありませんでした。

私、先日マクドナルドに行きまして、旨辛チーズテリヤキバーガーを食べてまいりました。私マクドナルド結構好きでよく行きます。私日経MJっていう新聞を読んでいるんですけども、これは日経マーケティングジャーナルと言いまして、消費とかマーケティングとかを専門に扱っている新聞です。月水金と発行されまして、あまり馴染みのない新聞かと思うんですけども、年末に消費者番付とかいって、その年にはやったものとかそんな番付はよく見るのかと思います。

私マクドナルドなんでよく行くかということ、非常にオペレーションがよくできていて、甘木のマクドナルドきれいだし、シニアの店員さんもいるんですけども、非常に掃除が行き届いていて、ホスピタリティと言いますか、そういったのも非常に素晴らしいなと思っています。よく行き届いたお店だなと思って見ております。

ここで、昨日MJの中で飲食店の外食店の売上高ランキングっていうのが出ました。それをちょっと御紹介したいと思います。

外食各店の売上高は約8兆4,000億円です、日本全国で。これ大体店舗数が9万店あるんですけども、その中でマクドナルドが1位です。1位で約7,800億円、マクドナルドが大体10%ぐらいを1つで占めています。マクドナルドは大体全部で3,000店舗ぐらいしかないです、全国で。2位がゼンショーホールディングス、これはロッテリアとかすき家とかありまして、ここが6,200億円ぐらいで1,000億円ぐらい差があります。あと皆さんなじみがある福岡でいきますと、プレナス、これが大体2,000億円ぐらいです。マクドナルドって直営で大体店舗数が3万店舗ぐらいあるんですけども、3分の2がフランチャイズなんです、直営店じゃないんです。フランチャイズなのにあれだけ行き届いているって

うのはすごいなと思います。

私、昨日マクドナルドで食事をしていましたら、奥のほうに手を洗う手洗い場っていうのがありまして、トイレのすぐそばに甘木店はあるんですけども、そこに行って私も手を洗ったんですけども、ちょっとやっぱり周りがびしょびしょだったから自分が手を拭いた後、ゴミ箱のところの周りだけちょっと拭いて捨てたんです。そしたらその後に、今度は若いお母さんが来てやっぱり手を洗われて、そしてきれいに全部拭き上げられたんです。それやっぱりすごいなと思ひまして、なんか日本人の美德だなんて、そのお母さん席に戻ってきて小学生2人の男の子と食事をしていたんですけども、この子たちが中学生になってどんな大人になるか見てみたいなど、きつこのお母さんの教育を受けるんだから、きつといい子に育つだろうなど、そんなことを思ひました。

今日は、積み残しの案件と、それと教育のこと、特に学校のトイレのことを申し上げたいと思ひています。昨日、隈部部長のほうで、秋月藩は人材を大事にする、人を大事にする、教育を大事にする藩であったというふうに言われてあります。私はその精神というのは、甘木市、朝倉市にも引き継がれているというふうに考えております。また、引き継がなければならぬと思ひております。

続きは質問席よりさせていただきます。

(12番中島秀樹君降壇)

○議長(小島清人君) 12番中島秀樹議員。

○12番(中島秀樹君) では、通告に従い、順番どおりさせていただきます。

被災体験を活かすということからさせていただきます。

これにつきましては、12月議会からの積み残しでございまして、2回見送っておりますので、今回は必ずさせていただきますと思ひております。

近年異常気象は、激甚化、頻発化しており、水害・土砂災害等の気象災害をもたらす豪雨には、雨の強度や頻度などの特徴があり、長期的な傾向として、雨の降り方が変化していると言えます。ゲリラ豪雨とか、この梅雨時期なんかは非常に心配をする季節が来たなと思ひております。

大規模災害が発生した場合、職員や庁舎の被災により行政機能が低下する中であっても、膨大な災害対応業務を行う必要があり、国や他の自治体、民間団体等からの人的応援を円滑に受入れ、最大に活用することが求められる。

私は平成29年の災害もそうだったんですけども、やはり職員だけでやるっていうのは限界があるのかなと、やはり頼れるところは民間の活力とかボランティアの力を借りてやらないといけないというふうに考えております。

大規模災害時には、自治体だけで全ての対応をすることは困難であるため、このような自治体や企業、団体等と協定を締結し、受援体制を強化していくことは重要である。私もそのように考えております。受援体制を強化するための有効な手段として、自治体間での

災害時の相互支援協定の締結や民間団体、民間企業との締結がある。

まず、お尋ねします。朝倉市にはこういったものがありますでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） まず、民間団体との協定ということでございます。こちらにつきましては、現在、社協のほうにおいて実施しております企業、事業所を対象とした災害時支援ボランティアとの事前登録、そういうものもしておりますし、協定につきましては、41の企業、団体等と協定を結ばせていただいているところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 令和5年の7月にも豪雨災害がございまして、ボランティアの方も来られたと思うんですけども、あのときは久留米の竹野地区が非常にクローズアップされまして、そちらのほうがマスコミのほうで大きく報道されましたので、関心がそちらに移ったのはあるかと思うんですが、ボランティアが少なかったのではないかなと思っております。そういった中で、一定数のボランティアを確保しないと市の職員の方もボランティアに行かれたりしていると思いますが、日頃の日常業務のお休みをとってボランティアに行くっていうのは、くたくたになって業務の効率も上がらないと思うんです。

そういった中で、企業ボランティアとか団体とか協定を結んでいるというか、その活用というのが私は必要ではないと思うんですが、具体的にはどういった企業とそういった協定を結んでいるんでしょうか。私は、ある程度大きな企業で、たくさん全国から人が寄ってくるようなそういった企業と提携を結ぶべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） まず、昨年7月の災害におきましては、市社協が災害対策ボランティア活動本部を設置しまして、47件のボランティア要請に対して22日間延べ610人の方に猛暑の中で活動していただいたところでございます。

また、協力団体である災害ボランティアにも8件の要請に対しまして14日間延べ87人の方に活動を行っていただきました。

また、企業のボランティアの状況でございますけれども、現在、社協において実施しております企業事業所を対象とした災害時支援ボランティアの事前登録につきましては、令和4年に締結いたしました朝倉市と麒麟ビール株式会社との包括連携に関する協定に基づきまして、新たに制度化されたものでございます。昨年7月の災害におきましても、麒麟ビール福岡工場のほうにボランティアとして参加を頂いたところでございます。

議員おっしゃいますように、従業員数が多い企業等に協力いただけることは非常に有効と考えるところです。現在、市と包括連携協定を締結しております他の企業や団体に対しましても、災害時支援のボランティアの事前登録をお願いするなど、社協等と連携し協力いただける企業等の掘り起こしに努めたいと考えております。

以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 今、社協という言葉が出ましたけども、社協にお願いしているというのは、これ、アウトソーシングですか、私は朝倉市がボランティアの募集というのを先頭を立てて朝倉市の旗の下に集めればもっと集まるんじゃないかと思うんですが、そこから辺の考え方はどのような考え方をお持ちでしょうか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 議員言われますように、まっ直で市のほうがという考え方もありますけれども、市のほうがその時点、災害直後におきましては、災害の対応に直接現場に行くとか追われておりますので、社会福祉協議会と協定を結んで社会福祉協議会に災害ボランティア等の設置をお願いしているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私は、登録制でボランティアを募って、実際に災害が起きたら業務優先になるでしょうから、オペレーションのほうは社協にしてもらおうんですけども、集めるのは市が、執行部が集めるのがいいんじゃないかと、そちらのほうが集めやすいのではないかというふうに思っております。私がイメージしているのは、自衛隊の予備役みたいな形で、登録制で何かあったら来てくださいよと、そういった人を確保しておくというのは、私は大事だと思うんですが、市がそういった組織を立ち上げるといいますか、市直営の組織を立ち上げる、そういったおつもりはありませんでしょうか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 朝倉市の災害時におきましては、事前計画を立てて対応しているところでございます。その中で災害対策本部において、受援班のほうを担当部署を決めまして対応しておりますが、ボランティアをその中であらかじめ直接お願いしておくという考え方が、市が直接できない、手に負えない状況が、平成29年当時振り返ればありましたので、それについては社会福祉協議会のほうとの連携で今後させていただきたいと考えております。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 市がなかなか難しいということであれば、市の中にボランティア団体があると思うんですけども、そういったものと緊密に連携をしてやっていくというやり方もあるのかなと、要するに民間の活力の活用というふうに考えているんですが、そういったことはできませんでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 平成29年7月以後をきっかけに、朝倉市では市にあります災害ボランティアの1つCampというのがございますが、そちらのほうと連携を継続しております。その中で、昨年の7月の災害の例を申しますと、7月すぐに情報共有会議とい

うものを開催しております。これは平常時もずっと毎月1回情報共有会議というものを開催しております、その中には、市のほうでは総合政策課また総務財政課のコミュニティ推進係等が出席をさせていただいておりますし、災害ボランティアまたFネットという団体でありますとかJVOAD、そちらのほうもオンラインで会議に参画するというところで連携を取っております。

昨年、災害直後には、地域の議員も御出席いただいたような状況でもございますので、そういうふうなネットワークを通して広く声かけができる状況を、平時のつながりをつくらせていただいているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 今、FネットとJVOADという団体の名前を初めて私聞いたんですけど、この団体というのは全国組織でしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） JVOADは全国組織でございます。Fネットは福岡県内の災害ボランティアであるとか、福岡県の社会福祉協議会、また県のほうもオブザーバーとして参加していただいている団体でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） そうしたら、Campというのが出ましたけども、Campは朝倉市の団体だと思うんですけども、平成29年災害からずっとやっていて、防災の講義とか講演とかには必ず名前を聞く団体なんですけれども、こういった団体というのは、私としてはよくやっているなと思うんですけども、こういった団体を大事にしないといけないのではないかなと思っているんですが、情報共有とかではなく、もう少し市の中に取り込んでいくような、そういった形を取って、もっとこのCampというのを大きくしてやっていったらいいんじゃないかと、連携をもっと強めるべきだというふうに考えますが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 議員言われますように、連携を深めることはとても大切なことであると思っています。平成29年であるとか、令和5年の災害であると、大きな災害であるとやはり注目度が集まって、ボランティアの方も声かけ、申込みがあるというふうな状況になるんですけども、例えば令和2年であったかと思えますけれども、安川のほうで1件土砂崩れで倉庫が崩れたとかというときには、やはりボランティアの方が集まるということがございません。そのときにCampのほうに、こちらから投げかけをいたしまして、そちらのお宅のほうに応援をしていただいたというふうなつながりがありますので、そういうふうな平時のつながりを続けながら、小さな災害でも大きな災害でも対応していきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 災害が起きたときにすぐ駆けつけてくれる、地元のことがよく分かっている団体というのは、私は大事にすべきだというふうに思っておりますので、これからも大事にしてあげて育ててほしいなというふうに考えております。

また、先日、高鍋町の議会が来られまして、議員との交流をさせていただいたんですけども、平成29年災害のときにやはりお見舞いに来られて、その当時の議長が涙を流してお見舞いの言葉を述べてくれたというのは、私は非常に印象的だったんですけども、高鍋町のためだったら朝倉市も何でもしてやろうというぐらいの気持ちがあると思うんです。高鍋も同じだと思っております。

そういった中で、私は、高鍋町とだったら災害協定で強い結びつきといいますか、カウンターパートとして災害の協定を結んでもいいんじゃないかなと思っております。高鍋町と距離が離れておりますので、同じ災害に見舞われるということはあまりないのかなと思っておりますので、そういったこれからの高鍋町との災害面での結びつき、こういったのを強くしていくべきだと思っておりますが、市長、そこ辺のところはどのようにお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 高鍋町と朝倉市と協定を結んで非常に濃い交流を今していると、その中で平成29年の災害のときには私はおりませんでしたので、その後、宮崎県の高鍋町小丸川という直轄河川もあります。そこで被害が出たというようなときには、災害直後の段階では電話を入れるのはどうかとちゅうちょしますので、そしてある一定時間を経た後に、こちらのほうから被災の状況はどうかというようなことで直接今、黒木さんですけど、黒木町長のほうに電話を入れたり、あるいは昨年7月の豪雨のときには、黒木町長さんのほうから私のほうに直接電話があったりということで、被害状況とか対応状況とかそういったことの意見交換は、その2回以外にもこれまでもやっているということでもあります。

協定を結んだらという御提案でありますけれども、御提案を頂いたといったことを受け止めさせていただいて、どういう形で両市長が災害に対して、あるいは防災に対してやっていけばいいかといったことを含めて、ちょっと話をしてみたいというふうに思います。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 高鍋町との件は、ぜひとも御検討いただければと思っております。精神的な結びつきというのは非常に強いのかなと思っておりますので、ぜひともいいものになったらなと思っておりますので、御検討のほうをどうぞよろしく願いいたします。

では、すみません、時間の関係上、この質問はこれくらいにしまして、次の質問に移らせていただきます。

教育環境を充実させたいということで、私は昨日の北川議員の学校のトイレの洋式化の応援の一般質問をしたいというふうに思っております。非常に昨日の一般質問は感動的で心が揺さぶられる質問だったというふうに思っております。

この質問をする前に、私まず最近学校のトイレの洋式化のことにつきましては、私の地元でも非常に話題になっております。先日コミュニティ会長から呼ばれまして、学校のトイレについての要望が多いと、地元のために議員として汗をかいてほしいと言われました。次にある区会長、区会長Aから学校のトイレの改修については、今度の議会で当然中島議員は一般質問をするんだらうと、しないとおかしいよと言われました。区会長Bからは別の区会長から、なぜ議員は力を合わせて本件の予算要求をしないのか、何のための議員だと、理解ができないという言葉が投げかけられました。そして、学校関係者の方はトイレを我慢する子がいると、何とかしてほしいとそういうふうと言われました。また、今朝ですけれども、ある議員から今日は机をたたいて一般質問をなさいというふうと言われました。

そういったように、私議員として、議員の職責として、この問題は何とか前に進めないといけないというふうに思っております。

では、まず、梅田総務部長、税の本質って何ですか。税です。憲法の30条で納税の義務をうたっていますよね。何で私たちは税を納めていないといけないのでしょうか。どんなふうにお考えですか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 納税の税の使い方のほうですか、それとも納める使い方（発言する者あり）といたしますと、一つの自治体がいわゆる市民一人一人の方から集めさせていただいているものについて、公共的に使う施設、そういうふうなものについての財源に充てさせていただくための財源というふうに考えるところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） さすがです。これは国税庁のホームページから取ったんですけども、税は公共サービスの対価である。つまり税の本質とは、自らの代表、我々議員が税の支出の在り方を決めること、地方や国を支える税金を負担しないとけないことは表裏一体である。だから税の使い道を監視する、監視を持つことは納税者、住民として当然のことであると、そういうふうに書いてあります。

代表なくして課税なし、代表を送れないんだったら課税はされない、住民の代表である我々が、市民の要望に基づいて税の在り方、使い道を決めていくということです。

二元代表制の一翼を担う我々は議決機関です。市のほう特に首長は、林市長は、市政の執行機関でございます。我々議会は、市政に市民の意向を反映させる議決機関です。市民の意向を我々は反映をさせて議決していかないとけないです。ですから、私は今日厳しいことを言いますが、これは二元代表制の相互牽制の一つだと思ってください。議員は議会の一般質問や要望を通じて予算化すべきだという施策を首長に伝えます。そして首長は議会に提出する予算にあらかじめ議会の要望を織り込んで予算を提出して、それを議員が可決すると。私は今日の一般質問は予算編成のプロセスにおいて相互牽制が効いてい

る大事なプロセスだと思っていますので、お聞きいただきたいと思っております。

では、まず、昨日の隈部部長の答弁の中で、文部科学省が令和5年9月1日現在で公共学校施設のトイレの洋式化の状況についての報告をなさいました。全国比べても仕方ありませんので、福岡県を私は例にとったほうが分かりやすいのかなと思っております。

福岡県の中で60市町村ある中で59位、59位ですよ。これっておかしくないですか。朝倉市が若者に選んでもらう市になるために59位で選んでもらえるはずがないです。最下位は20%で朝倉市は35%、35%の市は1朝倉市だけです。そしてその上は40%が4つか7つ、8つありますけれども、35%ですよ、これで若いお母さんとかに選んでもらえるはずがないです。朝倉市は、秋月藩は子どもを大事にする教育を大事にする市でしょう。その市が子どもにトイレを我慢させて、いい教育ができるんでしょうか。このところプラン・ドゥ・チェック・アクション、PDCAのチェックが効いていないというふうに私は考えるんですが、誰がチェックしているんですか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） チェックにつきましては、議会のほうにも当然お願いをいたしております中で、私どもとしては、行政評価のほうでチェックをしていると、自己チェックになりますけれども、そういうふうに考えております。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 令和4年3月に朝倉市公共施設等総合管理計画策定されましたよね。その中に最後のところにPDCAサイクル入っていますよね。本当にやっているんですか。

それと、学校施設の長寿命化計画策定、これってインフラの長寿命化基本計画においての文科省のガイドラインで出ていますよね。大刀洗町は学校施設の長寿命化計画の策定ができています。インターネット上に上がっています。朝倉市はまだつくっていないと思います。これってつくらなくていいんですか。この計画をつくっていないから私はチェックができていないと思っているんですが、これはいかがなんでしょうか。

この学校施設の長寿命化計画の策定、これはいつつくるんですか、それともつくらないんですか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 現時点ではまだ策定の予定というのがございません。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 計画を必ずつくると言っているわけではない。お忙しいでしょうから、必要なものだけはつくるべきだというふうに私は思っているんですが、これはそもそもつくらなくていいんですか。上位の公共施設等の管理計画をつくっていれば、実施計画ですよ、これってつくらなくていいような、そういう立てつけになっているんですか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） まず、先ほどの質問を言ってありましたけれども、公共施設の管理計画、こちらについての評価というものが、いま一つできていないところがあるかとは思っております。

それと、学校施設の長寿命化のガイドラインが作成しなければならないのかについては、今ちょっと分かりませんので、申し訳ありませんが、回答を控えさせていただきます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私、最近マスコミの報道を見ていて悔しいんです。大刀洗町、大刀洗町、大刀洗町、隣です。なんで大刀洗町に朝倉市が負けないかんのだと思っております。幸福度一番とか、子育てに力を入れているとか、そういうふうに言われております。

でも、インターネットで探したら、筑前町も確かに長寿命化計画はなかったような気がします、インターネット上は。ある程度一通りのところは見たんですけどあまりなくて、やはりそんなに積極的につくる計画ではないのかなとは思いますが、ただ大刀洗町はつくっていました。だから、やっぱりこういうところで差が出るのかなと、やっぱりやるべきことをきちんとやっているのかなと思ひまして、ちょっと厳しいことを声が大きくなりましたけども言わせていただきました。

そういった中で、さっきの59位の分を言わせて、もう一度皆さんに認識していただきたいと思います。福岡県は85%が洋便器率です。洋式化された便器率です。近隣の朝倉市は35%、うきは市、ちょっと数字を丸めます64%、隣の嘉麻市85%、筑前町70%、東峰村65%、大刀洗町92%、確かに市町村の学校数の大小はあると思います。大刀洗町は学校数が5つしかありません。一方、朝倉市は17です。それは確かに違うと思うかもしれませんが、じゃあ同じぐらいの市町村、柳川市学校数25、64%、八女市学校数25、52%、行橋市17の94%、春日市は18校67%、宗像市22で63%、糸島市22、67%、やっぱりどう見ても見劣りします。

これを議員として看過するわけにはいきません。早急に改善が必要です。確かに教育に大事にしていると言っていますけれども、お金を教育に予算を取らないといけません。我々議員は、市民の代表として予算の使い道を議決していく機関です。市民が望んでいるのであれば、そのとおりにやっぱりやらざるを得ません。もちろん全体最適というのは分かりますけれども、私は学校予算があまりついていないのではないかというふうに感じているんですが、教育予算ちゃんとつけていますでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 教育予算につきましては、近3年の予算額を申させていただきますと、令和4年度が23億円、それ以下は、はしょってさせていただきます。令和5年度が31億円、令和6年度43億円ということで、それぞれ必要な今年度であれば、立石小学校の校舎増築でありますとか、体育館の改修、大福小、杷木中の体育館改修等、必要なも

のには予算措置をしているというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私、具体的に名前を出していいのかわかりませんが、三奈木小学校とか地元の小学校とかに行きますと、ちょっと照明が暗いのかなとか、そんなことを感じます。学校にあまりお金は使われていないのかなと、ただ今のお話だと、令和4年度は約23億円、令和5年度は32億円、令和6年度は44億円と右肩上がりです。教育部の予算というのは、教育費は増えていっております。構成費も全体の構成費が令和4年は6.5%、令和5年は7.9%、令和6年は10%になっています。だから確かに使っています。それはよく分かります。だけれども、でも私はそれでは足りないというふうに思っております。

トイレの洋式化、これは令和5年度から初めて出てきた事業だと思います。令和6年度は2億900万円、トイレの洋式化に使っていると思っておりますが、まだたかだか出てきて2年なんです。これじゃ遅いんじゃないですか、スタートが遅いんじゃないかなと思うんですが、なんでこんなにトイレの洋式化というのは、予算がつかないんですか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） 長いこと財政に携わってましたので、少し流れの話もさせていただきたいと思っておりますし、教育委員会が言えないこともあるので、私のほうで少し言わせていただきたいと思います。

合併してしばらくは耐震化事業にずっと教育部のほうは携わっていたと思います。その後、太陽光とか普通教室の空調化など、こういった面につきましては、他市よりもむしろ早かったのではないかなというふうに、私は分析しております。

その後、平成28、9年ぐらいに、杷木統合新設小学校のほうを建築しております。その途中に平成29年の災害に遭っております。そのとき杷木中学校も被害を受けておるわけですが、そこから3年ぐらい平成29年から3年ぐらい皆さま御存じのとおり、比良松中学校の体育館の状況、技術室の状況、そういったものもございました。あと、杷木地域の仮設の校舎、そういったものも携わっております。

そういった3年間の中断というのは、非常に大きかったのではないかなというふうに思っておりますし、その後は、今度は国のほうが令和元年から令和2年にかけてはICT、タブレットの事業とか、その後は、今度はコロナが参ってまいります。

そういったいろんな事業を決して教育部局のほうにさぼったわけではないと、私は思っております。しっかり担当者が頑張っていたらと思っておりますが、やっとそういったものが少しずつ整理ができてきて、はっきり申しまして、その辺りまでは予算要求があっていませんでした。やっと予算の要求ができるようになってきているのかなというふうに私は思っております。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） そういった事情は確かにあるかと思います。だけど、私は嫌われてもいいからこの現状というのを訴えたいと思います。必要です、トイレの洋式化は必要です。そうしないと朝倉市は選ばれない。やっていただきたいと思っています。

確かにお金も時間も有限です。けども、有限の中に優先順位をつけていかないといけないと思っています。昨日、北川議員の一般質問の中で、梅田総務部長、優先順位のことを言われましたよね、優先順位を決めていると。優先順位を決めるってどうやって決めているんですか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 昨日も申し上げましたけれども、優先順位はそれぞれの担当部署がその業務について精通しておりますので、担当部署のほうでまず優先順位をつけるということになるかと思います。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） サラリーマンの皆さんは、私も前サラリーマンだったんですけど、たくさん仕事を見つけられます。時間は有限、徹夜してやるわけにはいかない。そしたら優先順位をそこでおのずとつけます。皆さん経験あると思いますけども、優先順位のつけ方ってあると思います。重要なことと緊急性のあること、これをマトリックスに上げて重要度が高いもの、緊急性が高いもの、そういったものを図で言う右上のところの部分が一番やっていくというのが、優先順位のつけ方の基本かと思います。

私は重要度高いと思います。北川議員が昨日あれだけ言われた。柴山議員も遅いと言われた。熊本議員はおととしの12月議会だったと思いますけれども、この問題を取り上げている。4人の議員がこの場で訴えているんです。緊急度が高いはずで。緊急度が上がりました。だから優先順位を上げてください。重要度も高いと思います。住民がみんな望んでいます。

和式のトイレって私も久しく使ったことがないです。それに学校はこれから避難所になるかもしれないです。それで和式のトイレだったら避難所としての役割も私は立たないのではないかと考えています。

そういった意味でも重要度は高い。だから優先順位を上げるべきだと思っています。いかがでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 議員皆様の声は、市民皆様の声であるというふうにまた考えるところでございます。その意見につきましては、私どもは十分肝に銘じまして、今後予算化を考えていきたいというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） この大規模なトイレ改修事業というのは、国庫補助があるはずで。この国庫補助についてお尋ねをします。

国庫補助ってトイレの改修したらどれくらい頂けるんでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 教育課長。

○教育課長（平井謙一郎君） 国庫補助でございますけれども、学校施設環境改善交付金でございます、補助率が3分の1でございます。対象工事費が上限額7,000万円、これは単年度で学校建物区分ごととなっております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 上限額が7,000万円で3分の1の補助とおっしゃられましたよね。そしたら3で割ったら2,333万3,000円、たかだか2,300万円ぐらいです。それだけの補助をもらって、あとは一般財源になると考えていいんでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） まずは一般財源ですけれども、補助裏につきましては一定交付税措置がある起債のほうが適用できるかというふうに考えます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 7,000万円補助して、もちろん交付税措置があるというふうになって起債のほうがいいのかもしれませんが、だけど、すみません、単純化させて言わせてください、私ちょっと感情的になっていますので、2,300万円でしょ結局3分の1だから、7,000万円やって2,300万円しかもらえないんですよ。それだったら一般財源でやってもいいんじゃないですか。たった3分の1しかもらえないだったら。基金があるじゃないですか。一時期、基金の金額がどれくらいが適正かというのがあったと思います。でも、基金をためるだけためて、それは財政均衡、健全財政、大事ですけれども、基金ってそういうものに使うのが市民のためじゃないでしょうか。私はそうだと思います。

ふるさと納税の地域振興基金、今約44億円当初予算であります。学校のために使いましたと、トイレの洋式化して子どもが大変喜びました、言ったら、寄附した人喜ぶんじゃないですか。財調26億円、公共施設等整備基金20億円、お金あるじゃないですか。これに使えなかったら何に使うんですか。私は基金を使ってでもやるべきだというふうに考えますがいかがでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 議員言われるように、基金の状況については、それぞれの基金の目的もございますので、その基金が学校のトイレの洋式化に充当できるかということは、必要な検討があるかというふうには思います。議員言われるようなことを十分踏まえながら、今後また検討させていただきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私たちは何度も言います。議員は市民の代表です。市民の声を届けないと存在意義がありません。トイレの洋式化は急いでやらないと、朝倉市は市民から見捨てられます。日本の人口はずっとこれから減っていくんです。福岡市のそばにあるか

ら朝倉市はひょっとしたら流入が増えるかもしれません。だけれども大事なものは、まずは住んでいる方の流出を防ぐ、これが大事です。この人たちが満足して、いいねボタン、朝倉市いいねを押してくれないと、新しい人は来ないんです。

この前、クローズアップ現代で若い女性がキーであると。若い女性の確保というのが大事だというのがありました。そういった中でこんな言葉がありました。東京が令和だったら、うちの地元は江戸時代だと、考え方を変えないといけません。柔軟にやって朝倉市を私は議員として守っていかないといけない。残していかないといけない、だから発想を変えてください。子どものためにやらないと私はだめだと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

そしたら、教育長、もう2期目になられましたよね。昨日、北川議員の言葉、それから私も今日強く、嫌われるのを覚悟で言わせていただきました。教育長として2期目で円熟期を私は迎えたと思います。教育長は何がしたいんですか、どうしたいんですか。今までの議論を聞いてどう思われましたか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 今、議員が申されました、今から何をやりたいのかということでございます。たくさんございます、実は。その中の1つが、こういった「ひと・もの・こと」で見た場合の「もの」、特に学校教育で申しますと「もの」も充実したいというのは、個人的にはあるところでございます。しかし、これは当然財源が関係しますので、調整させていただきながらやりたいと、「ひと・もの・こと」でバランスよくやっていきたいと、大きくは4つほど考えているところはございますけれども、まだこれは、まだ明言できる段階ではございませんので、やっていきたいというふうに考えております。

今回、昨日の北川議員からの御質問等もございまして、学校のトイレの洋式化につきましては、やっぱり日本の生活様式の変化、これに学校教育がついていけなかったというこういった反省点もあるかと思っております。まずは、こういったトイレの洋式化について協議を深めまして進めていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 教育長の下には、隈部部長の下には、学校関係者、地域住民から、私が今日口を酸っぱくして言ったことは耳に入っていたはずですが。そういった意見というのは届いているのでしょうか、聞いていますか、対話していますか。

私は全体最適というのがあって、総論は多分みんな市が市民もお金がないというのは分かっていると思うんです。災害が明けで大変だったというのは分かっていると思うんです。だけれども、総論は賛成だけど、でも自分の地域は何とかしてよと、各論反対になるのが、私は当然のことながらそういうふうになるのが、市民の性質だと思っております。けれど、そこを分かってよということで、対話をして乗り越えていく、説明をしていくというのは、私は大事だと思っているんですが、そこの辺のところの声が届いているか。

それから、学校関係者、保護者と対話をしているか。このところをお尋ねしたいと思います。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 市民の方、保護者の方々からのお声というのは当然いただいておりますし、私のほうにも届いております。

そういった中で、先ほど副市長のほうも申し上げましたとおり、ようやくトイレのほうに手がつけられるようになったということで、対応させていただいているといった状況でございますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 近隣の大刀洗町、例に出しましたけども、人口が横ばいであったりとか、微増になっているとかというような市町村もあります。そういったところは洋式化率も高いというふうに聞いております。私はそういったことをやることによって、市の魅力向上、それから移住定住に効果を上げないといけないと、そうしないと朝倉市は生き残れないというふうに思っていますが、今までの議論についてどのようにお考えでしょうか。朝倉市は生き残れますか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 先日から出ておりますけれども、消滅可能性都市からの脱却ということにはなりました。ただ、近隣の大刀洗町等今いろいろ名前も出ていますけれども、そちらに負けないような形で、いろいろな地方創生の事業に取り組んでいかなければならないというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） すみません、今日はもっと落ち着いて質問をするつもりだったんですけども、ちょっと熱が入りすぎてしまいました。ですけども、やっていただきたいと思っております。

私は、朝倉市の未来のため、次代を担う子どものために教育環境の充実は必要だと思っております。スピード感を持って取り組んでほしいと思っております。市長、どのようにお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 教育は極めて大事なものであり、朝倉市にとっても力を入れるというのは当然であるというふうな認識を当然持つておる中であります。

教育長から先ほど答弁の形で考え方が述べられたところであります。今日は、副市長がこれまでの経緯等を理解していただきたいということを、ちょっと話をさせていただきました。総務部長を中心に今いろいろ答弁をさせていただきましたけれども、教育環境を特に今問題とされておられる学校教育の環境については、特にトイレの問題が遅れているという事実がありますので、しっかりやっていきたいというふうに思います。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私はコミュニティ会長から呼ばれて、地元の議員として汗をかいてほしいと言われたときに、個別の部分最適の話をするのはどうなのかなと少し迷いが最初ありました。ですけれども、いろんな声を私のほうに声が入ってきて、各議員さんが関心を持っていることを知りまして、これは部分最適ではないんだと、全体最適なんだと、朝倉市にとって必要なことなんだというふうに感じております。

ひょっとしたら、教育ってトイレの洋式化だけじゃないでしょうと、IT化もあるし、インクルーシブ教育もあるし、LGBTQの話もあるし、そういうのたくさんあると思っています。だから私はひょっとしたら今日は議論が偏っているのかもしれませんが、でもこの問題というのは非常に市民の関心が高いです。ある意味シンボリックになっています。ここをやはり解決していかないと、市民は私は納得しないと思っております。予算も時間も有限です。だからすぐにやってほしいんですけれども、それは執行部の皆さんにお任せいたします。そして、議員として私はチェックをしていきます。

ただ、先ほど対話のことを言いましたけれども、日本銀行とかアメリカの連邦銀行とか、フォワード・ガイダンスと言いまして、こういったやり方でこれから政策を進めていきますよというようなを出している。これは金融政策の一環なんですけれども、少なくともトイレのことについてはやっていきますと、市としてもやっていきますというこの姿勢だけは、ぜひとも市長部局、教育部局に出して示していただきたいと思っております。そうしないと朝倉市は住民から見捨てられると思っております。

ぜひともぜひともお願いします。強く強く昨日の北川議員に引き続き、議員として私はものを申させていただきます。これが私の職責です。どうぞよろしく願いいたします。

これで、私の一般質問を終わります。

○議長（小島清人君） 12番中島秀樹議員の質問は終わりました。

以上で、通告による一般質問は終わりました。

これにて一般質問を終了いたします。

暫時休憩いたします。11時10分に再開いたします。

午前10時58分休憩